

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【食】

1. 都道府県、市町村 沖縄県名護市
2. 事業者名 農業生産法人 有限会社 水耕八重岳すいこうやえだけ
3. 取組みの名称 ゴーヤーを活かした商品開発による地域振興
4. 取組概要等

概要

平成2年4月に水耕栽培設備を導入した渡久地農園として創業、平成4年10月、農業生産法人(有)水耕八重岳とし、ゴーヤーを核として身近な素材をテーマに、地域の企業や研究所共同による商品開発をしている。

特許製法によるゴーヤー茶開発、モモルジンX等の健康食品開発、乾燥ゴーヤーなどの加工食品に至るまで、全て100%県産品使用にこだわっている。身近な素材にこだわり、原料生産者の意欲を喚起し、安定した農業経営を行える環境を地域に提供している。

平成7年には沖縄農業活性化構造改善特別対策事業により、名護市中山地区にゴーヤー茶工場を整備。平成15年度は約800tものゴーヤーを加工しており、生産期におけるゴーヤー青果の価格安定や消費量の増加等に貢献。県北部を中心に、全県より約500軒のゴーヤー生産農家や名護市勝山地区のシークワサー生産農家、名護市旭川のウコン生産農家、北部のパイナップル生産農家との良好な関係を築き、**共生していくという企業理念**をもっている。また、名護市屋部小学校中山分校へのゴーヤー苗の配布や、5月8日「ゴーヤーの日」に因んだイベントを地域ぐるみで開催、名護市中山地区と連携し「ゴーヤーの里」宣言にも関わるなど、積極的な活動を展開し、地域との共生を通じて地域活性化に貢献している。

平成16年9月にISO9001認証取得、同年10月にはオーガニックの認証【SEZ-161021】を受け、差別化を図ることにより他には無い地域ブランドを確立。信頼性の高い商品開発と販売を促進。**全国7万人の顧客に対する通信販売ネットワークを構築している。**

地域の特産品を活かした商品開発をもとに、生産者や地域との共生を図りながら自らの企業価値を高め、地域活性化の起点として活動を展開している。

活動の規模

項目	H12	H13	H14	H15	H16
生産量	191	510	389	787	761
解説	ゴーヤーの加工量 (t)				
売り上げ	322,000	416,000	439,000	790,000	510,000
解説	主にゴーヤー茶の売上 (千円)				
来客数	17,000	44,000	42,000	48,000	40,000
解説	直販店(本店)と中山ショップ(人)				
雇用者数	23	22	26	41	40
解説	季節パートは含まない(人)				
イベント回数	1	1	1	1	1
解説	5月8日、ゴーヤーの日になんだイベント				
イベント参加者	2,900	4,200	5,000	2,000	4,900
解説					
全国物産展回数	36	40	43	40	53
解説	全国の沖縄物産展への出展(北海道~九州の量販店での催事)				

活用している地域資源

(自社商品)

1. ゴーヤー (沖縄県)
2. シークワーサー (沖縄県名護市勝山)
3. ウコン (沖縄県名護市旭川)
4. パイナップル (沖縄北部)
5. センダンの葉 (沖縄県北部)

(受託加工)

1. やんばん緑茶・その他 (沖縄県名護市呉我)
2. ウコンの乾燥 (沖縄県名護市旭川)
3. トウガンの焙煎 (沖縄県伊江村)
4. センダン乾燥 (生物資源利用研究所)
5. シークワーサー果皮・果肉乾燥 (沖縄県名護市勝山)

地域活性化のポイント

沖縄型農業は、亜熱帯の自然環境を活かした小規模農業による高付加価値作物への転換が必要といえる。もともと沖縄県に自生している植物は加工商品に適した植物が多く、成分検出発見から製造方法についての知的所有権を獲得することによって、他との差別化を図る商品の開発を行うことができる。また、それを安定的に生産できる加工施設を整備するとともに地域の法人が連携し、お互いの商品の長を活かした製造コストの圧縮や共同での商品開発を進めることがポイントである。

事業の今後の展開方向

地元の農家と一体となり身近な素材・農産物を活かした商品開発を行い、特許製法等による保護で、沖縄県の自然環境に適した小規模農業を模索して行く。

産地ブランドの確立を図りながら、多様な販路により商品を全国へ販売し、農業経営をより魅力のあるものとしたい。

今後も農産物資源を活用し、それを取り巻く地域の絆を大切に、共生を図りながら、農村を抱えた地元ならではの地域振興に取り組んで行きたい。

会社の企業理念 「共生」

共生とは・・・自然、人間がそれぞれ競い合わずにそれぞれの特性を生かし尊敬し合いながら存続していくこと。



ゴーヤパーク店内